

地方型サテライトオフィス

テレワークには在宅勤務の他にも、サテライトオフィスで働くスタイルがある。サテライトオフィスは、企業が本社や支店から離れた場所に設置するオフィスであり、多様な働き方が推進される中、注目されている。

都市部では企業がビルの一室に、社員が仕事や個人の都合に合わせて作業ができるスペースを設置する動きが目立つ。一方、地方では都市部の企業が田舎の空き家などを活用する動きがみられる。このような地方型は、自然豊かな環境で作業に打ち込めることによる生産性向上や、地方の優秀な人材の活用、特定地域にしかない産業や研究機関との連携ができるといった企業側のメリットのほか、定住促進につながるといった地方側のメリットが期待されている。

このような中、総務省は2016年度から「お試しサテライトオフィス」モデル事業などを通じて自治体の誘致活動を支援し、地方型の普及を図っている。温泉などの地域資源や、趣ある古民家、都市部とのアクセスの良さといった各地方特有の強みを生かした誘致事例が紹介されている。

三重県も、豊かな山海、特色ある地域資源、名古屋や大阪に近い立地条件など、生かせる強みは多い。テレワークが普及する中、サテライトオフィスを通じた地方創生が期待される。

(コンサルティング事業部 PPP/PFIグループ 研究員 服部 諒)

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2020年6月22日